

2019年米国産 トウモロコシの状況について

飼料生産部 飼料調達課 山下 京子

◆米国産トウモロコシの状況

“Rain makes Grain?”

4月から5月末は米国産トウモロコシの作付けシーズンであるが、トウモロコシ主産地である米国中西部はこの期間に長雨に見舞われた。まるで日本の“梅雨”のような晴れが続かない日々。実は米国の異常気象は年明けから始まっていた。2019年1月末は米国中西部で大寒波に見舞われ、米国第3の都市であるシカゴでは最低気温マイナス30度（体感温度ではマイナス40度以上）を記録している。春になり暖かくなると雪解けによる洪水が各地で発生、雪解け水でミシシッピ川

の水位が上昇し米国物流のひとつである船（はしけ）輸送も大混乱となっていた。

このような状況下で、農家にとって忙しくなる作付けシーズンに雨が降り続いたため、大きな農業機械を畑に入れることが出来ず作付けが遅延。今年は観測史上最も作付けが遅い年となった。

さて、作付け遅延の影響はシカゴ定期にはどのような影響があったのだろうか。4月に入り市場には米国の作付け遅れの噂が囁かれ始めたものの、南米産トウモロコシの豊作がほぼ確定なことや、潤沢な世界のトウモロコシ在庫や米中貿易協議の先行き不透明感から、7月限月のシカゴ定期は370セント前半から5月のGW明けには340セント前半まで大きく下落した。

市場参加者は大きな油断があったと思われる。米国農業は最先端技術を駆使し、GPSを使って無人で24時間作付することが可能で、晴天が1週間もあれば作付け進捗率は約30%キャッチアップすることができるのだ。

そして5月12日、米国農務省(USDA)が発表した作付け進捗率は市場参加者を驚かせた。直近5年平均66%のところ、たった30%しか作付けが進んでいなかったのだ。この発表以降シカゴ定期は急騰、5月末には436セントの値を付けた。たった半月で90セント近く上昇したのである。

作付け遅延によりトウモロコシの生育にとって最も重要な受粉期が8月の高温時期となり、受粉障害が発生する可能性がある。収穫時期が遅くなり早霜の影響による収量減少、十分に子実が乾燥されないまま収穫され強制乾燥による品質悪化等々、懸念材料が山盛りだ。とはいえ“Rain makes Grain”のことわざどおり、長雨により土壌水分は潤沢なことから一度作付けを完了させることが出来れば、生育は順調にいくのではないだろうか。今年は例年以上に米国産トウモロコシの作柄には注視が必要だろう。



(資料1) シカゴの位置及び丸枠で囲んだ地域がトウモロコシ産地(コーンベルト)(google map)

(資料2) 5月26日時点 観測史上作付けが遅い年TOP 8 (2018年92%、直近5年平均90%)

| | | |
|----|-------|-----|
| 1位 | 2019年 | 58% |
| 2位 | 1995年 | 67% |
| 3位 | 1983年 | 73% |
| 4位 | 1993年 | 78% |
| 5位 | 1996年 | 78% |
| 6位 | 1984年 | 79% |
| 7位 | 1982年 | 79% |
| 8位 | 1990年 | 80% |

(USDAによる作付進捗率発表値)

◆米中貿易摩擦に振り回される米国農家

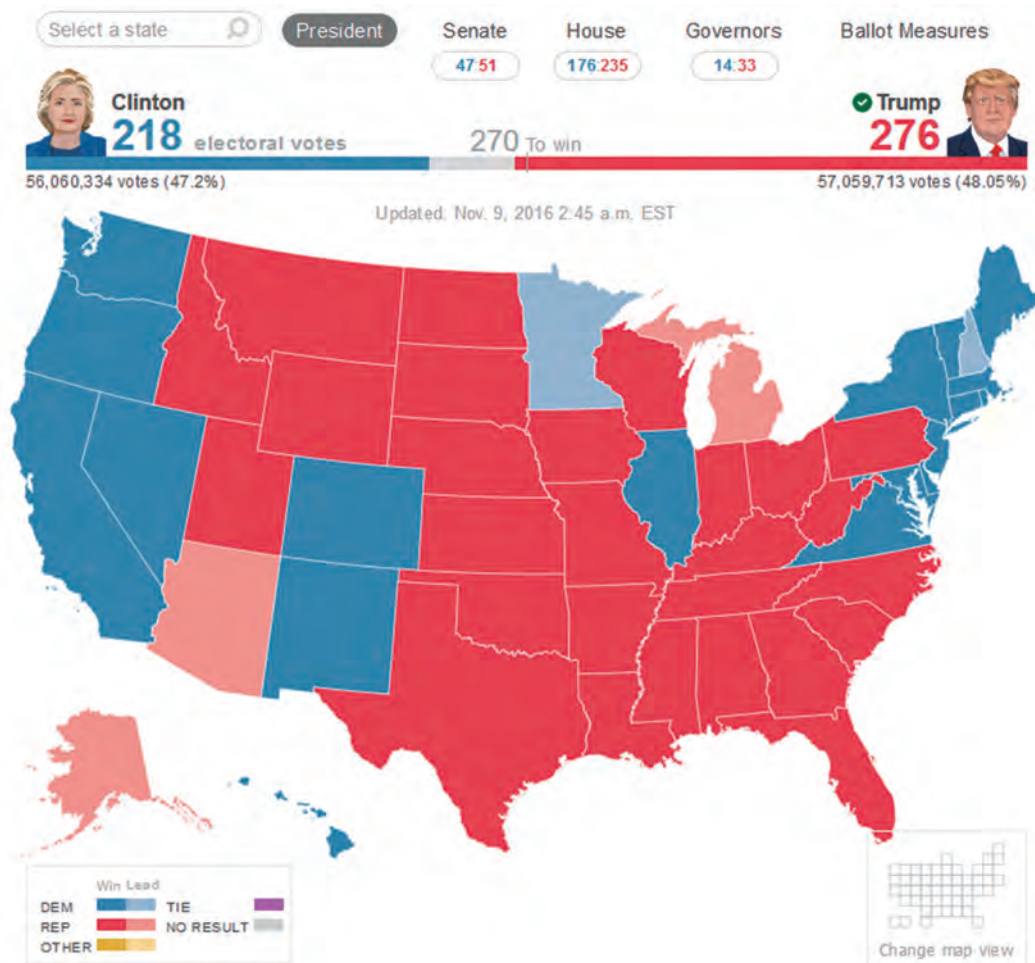
米国農家のほとんどが白人なのをご存知だろうか。2016年のヒラリー・クリントンとドナルド・トランプの大統領選挙結果の地図を前述のトウモロコシ主産地の地図を見比べて欲しい。シカゴが位置するイリノイ州とミネソタ州を除いてトランプ支持なのがわかるだろう。

現在、米国農家はトウモロコシが作付け出来ずにいるため、トウモロコシを植えずに大豆を植えるか、作付けを放棄して保険金を得るか、難しい選択肢を迫られている。昨年からはまった米中貿易摩擦の影響で、大豆のシカゴ定期は1,000セント台から一時期700セント台まで下落、現在は800セント台半ばを推移している。直近の作付け遅延の影響からトウモロコシのシカゴ定期が上昇しているため、農家としてはトウモロコ

シを植えたいと考えているが、天候不順で作付けがなかなか進まない。トウモロコシよりも作付け時期が遅い大豆にシフトしても、中国へ大豆が輸出されるか不透明だ。トランプ支持の米国農家はトランプの政策によって苦しめられているのである。

トランプ大統領は来年に大統領選挙を控えており、米国農家を無視し続けるわけにはいかない。そこで5月23日に米国農務省は、農家に対して作付面積当たりの補助金を支払うと発表した。国からの補助金を得られる農家は今後もトランプ支持を続けるかどうか着目したい。

米国農家もトランプ政策で中国に対して大豆が売れなくなったことに不満を持っているのは間違いないだろう。しかしながら、トランプ大統領への支持を続けるのも間違いないと思われる。これからも米国農家も我々も米中貿易問題に振り回され続けるだろう。



(資料3) 2016年米国大統領選挙結果